日本印刷新聞
2010年(平成22年)9月6日(月曜日)

地域を元気にする力

「まずやってみる」企業風土

アドヴォネクスト

全国印刷緑友会は今年度の事業テーマに「印刷を通して地域に愛される企業づくり」を掲げている。この取り組みは今、どのように進められているのか。一例としてY―ING(やまなし情報メディア研究会、㈱アドヴォネクスト(井上雅博社長)の活動を見てみよう。同社では井上社長がCSRの明確なビジョンを持ち、全社で共有している。まずやってみよう、という企業風土が醸成されている。

左から井上会長、今福氏、村松氏、井上社長

アドヴォネクストは1908(明治41)年創業、2008年に百周年を迎えた。長い歴史の中、井上雅雄会長による財団法人オイスカでのアジア・太平洋地域を中心とした植林活動や、会社周辺の清掃、プロサッカーチーム・ヴァンフォーレ甲府の横断幕スポンサー、職場体験の受け入れなどCSR活動へ取り組み、地域との共生、活性化へ力を入れてきた。

1999年に就任した井上社長は、〝利他の心〟を持って地域活性化のリーダーとなること、自社の事業イコール地域活性化へ貢献できるものでありたいと考えた。地域が元気になれば自社も元気になれる。社員1人ひとりが地域を元気にできる力を持つ、これを全社共通の目標とした。近年、社員が自主的に仕事直結でないプロジェクトチームをつくり生まれたのが、農業活動と清掃活動である。

紙を使用する印刷会社の責任

農業活動「ネクネク農活」(農活)は、紙を使用する印刷業の社会的責任として、自らの手でケナフなど一年草を栽培することでCO_2排出削減に貢献したいとの思いがスタートだった。農作業の経験がないメンバーはまず、自分の力で栽培ができることを目指した。地域の耕作放棄地を借りて農地として守ることもまた、大切な活動と位置付けた。

昨年の2009年から農地を「Smile畑」と名付け、タマネギや大根、じゃがいも、トウモロコシ、ネギなどを育てている。今年は水稲栽培「Smileたんぼ」もスタート。収穫した作物は社員の家族や取引先などに配り、心待ちにされるほど喜ばれている。

農活のリーダーを務めるのが村松紀氏。厳しい猛暑が続く中、早朝や昼休み、土日でも毎日の水やりと巡回を欠かさない。その働きぶりを見た隣の畑の持ち主に、高齢でもう続けられないから来年から引き継いでほしいと言われた。今後はさらに品種を広げ、作物の販売、子ども向け農業体験の受け入れなど、アイデアが尽きない。

「農活を通じ、農家の人々の苦労や栽培するプロセスの大切さを知った。自分の手がける野菜が成長していく姿は感動的。行政や農家の先輩、様々な人とつながり、協力いただき、期待へ応えていく中で、地域社会で輪が広がっていく。毎日が発見の連続だ」と農活の喜びを話してくれた。

清掃活動通じて人間力を高める

清掃活動は、7人のメンバーが参加するチームプラス7℃(プラ7)が中心となって取り組んでいる。きっかけはNPO法人日本を美しくする会「山梨掃除に学ぶ会」との出会い。現在は「山梨掃除に学ぶ会」が行う早朝や土日に実施される駅前清掃、県内の学校施設、神社などのトイレ掃除へ月1・2回ほどのペースで参加している。

トイレ掃除は、素手と素足でトイレに入り、スポンジやナイロンたわしなどを用いて汚れた便器を磨くという、なかなか人がやりたがらないつらい奉仕作業だ。しかし、それは地域、自分のため。汚れたトイレと向き合い磨き上げることで自分の心を磨く。作業を通じてメンバーは、きれいになった充実感に多くの気付きを得ている。

プラ7のリーダー・今福一仁氏は「山梨掃除に学ぶ会」で信頼があつく、さらなる活躍に期待されている。

「素足で作業するのは滑らないため。素手で作業をするのは仕上がりを確認するため。初めは抵抗があったが、今はそれが普通になった。ゴミが落ちていないのが当たり前だが、落ちていても気に留ない人も多い。当たり前のことを当たり前に、人の嫌がる清掃活動を自ら行うことで人間力を高めるのがプラ7の理念」と話してくれた。

井上社長は、地域に愛される企業づくりの思いを次のように語った。

「心が素直な社員が集まってくれたからこそ今の自主的活動が生まれた。まずはやってみよう、間違っていたら変えればいい、楽しそうに活動していれば自然と皆がついて来る、社員にはいつもそう言っている。

当社ではこれまでも、CSR活動の取り組みはあった。それが土台となって、ここ数年でより実践的な活動として芽が出た。目指しているのは、社員の人間的成長を通じた地域の活性化。地域とのつながりがなければ実現はできない。

地域の人々との交流から、自分たちが地域で生かされていることを身にしみて学ぶ。それぞれのプロジェクトを通じて皆が想像以上の速さで成長している。それこそが社長である自分の励み。社員の皆さんへは、感謝の言葉に尽きる」